

YAME
CREATE

八女のつくりて



つくる、
はぐくむ、
おもてなし。



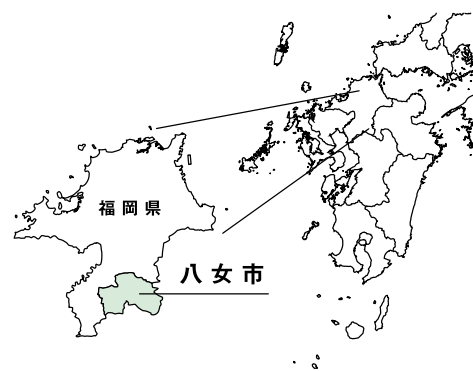
八女のつくりて

つくる、はぐくむ、おもてなし。

茶のくに八女に息づく「おもてなしの心」
一期一会の出会いから、
共に暮らす喜びを分かち合う。
山や川がもたらした風土の恵みのように
それはほっくりと、あたたかい。

八女市の概要

八女市は、平成18(2006)年10月1日に上陽町、同22(2010)年2月1日に黒木町、立花町、矢部村、星野村と合併し、福岡県内で2番目の面積を有する広大な市となり、現在に至っています。福岡県の南部、福岡市から南へ約50kmに位置し、北は久留米市、広川町、うきは市、西は筑後市、みやま市、南は熊本県、東は大分県に接しています。八女丘陵には岩戸山古墳をはじめ多くの古墳があり、仏壇・提灯・手すき和紙などの伝統工芸品や、ブランドとして名高い八女茶、電照菊・イチゴなどの農産物が豊富です。



CONTENTS

YAME CREATE1 郷土(くに)のつくりて

八女、はじまりの地へ(八女津媛伝説)...	4
八女茶×つくりて.....	6
農業×つくりて.....	8
自然×つくりて.....	10
技×つくりて.....	12
風情×つくりて.....	14
歴史×つくりて.....	16
文化×つくりて.....	18

YAME CREATE2 暮らしのつくりて

全国から選ばれる地へ(子育て).....	20
アクティブ×つくりて.....	22
コミュニティ×つくりて.....	24
再生×つくりて.....	26
定住×つくりて.....	28

YAME CREATE3 あたらしい郷土づくり

都市基盤づくり.....	32
生活・環境づくり.....	33
産業の振興.....	34
健康・福祉の充実.....	35
教育・文化の振興.....	36
市民参画と健全な行財政運営.....	37
議会/市長あいさつ.....	38
八女市資料編.....	40

1

YAME
CREATE
くに
郷土
つくりて

かざす手は
未来をつくる

太古の時代から続く八女の郷土。豊穡の恵みを生む大地は、矢部川や星野川といった清流からの賜物であり、そこに住む人から人へ、手から手へと守り抜かれ、発展へと導かれてきました。



神秘の宿る風景

何千年もの歴史ある山や川は、この地を生きる八女の人々の暮らしを静かに見守ってきました。いまなお残る祭事からは、その計り知れない歴史の趣を感じずにはいられません。



八女、 はじまりの地へ

八女津媛伝説

八女という地名は、五穀豊穡や無病息災をもたらす女神、八女津媛に由来しています。大和朝廷の時代、景行天皇が八女の地に巡幸の折、水沼の県主猿大海が「この地方に女神あり。その名を八女津媛といい、常に山中におる」と奉じたことから、八女の地名が起ったといわれています。矢部の神窟（かみのいわや）という集落にある八女津媛神社の境内には大きな窟があり、そこからしたたり落ちるしずく

がせせらぎとなり、やがて肥沃な大地を創造する大河、矢部川となりました。有明海まで注ぐこの雄大な矢部川は、流域全体をうるおし、八女市は古くからその恩恵を受け、お茶に代表される産業や伝統工芸へと文化を紡ぎながら繁栄を遂げてきました。八女という地のはじまりは、多くのものに喜びを与え、幸せな時を紡ぎ、住む人と訪れる人の縁（えにし）を結ぶ源となりました。



八女津媛神社 日本書紀に記されている女神を祀ったと伝えられる神社。八女津媛にまつわる岩穴、八女市の天然記念物に指定されている権現杉などがあります。



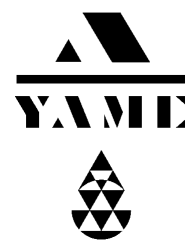
1

郷土のつくりて

八女茶 × つくりて

そのおいしさや日本的な情緒から、八女流もてなしの真髄ともいえる八女茶。その特徴は、「味や香りはもちろんのこと、色あいやかたちの美しさにいたるまで完璧を求める高級茶」であること。一つ一つの芽を大きくしっかりと育てる栽培法を行ない、ほとんどが二番茶までしか摘みません。

玉露は旨み成分を高めるために、稲わらで約20日間被覆する伝統技法（伝統本玉露）を採用し、全国茶品評会において数々の農林水産大臣賞を獲得。つくりてたちの熟練の技術と情熱の集積こそが八女の茶作りの本領であり、日本一たるゆえんなのです。



八女伝統本玉露は世界へ

地域の農産物やブランドを品質基準とともに国が登録し、知的財産として保護する「地理的表示（GI）保護制度」の第1弾に八女伝統本玉露が登録されました（平成27年12月）。お茶の業界で一番乗りとなったこの成果は、海外展開への足掛かりとなり、ニューヨークを拠点とした商談会などの販促、高級レストランでの採用など、世界進出に向けたブランド戦略を展開しています。

KURASHITE
INTERVIEW

世界一の玉露づくり

八女の玉露の特徴は、被覆栽培の際に使う「すまき」という道具を天然の藁で作っており、一芯二葉を手で摘み取るなど手間暇がかかっているところ。1年に1度の収穫に向けて1年間大切に育てています。玉露栽培を始めてからまだ年数は浅いですが、八女の歴史ある玉露づくりを受け継ぎ、次の世代にも引き継いでいけたらという思いで栽培しています。多くの方に、八女のお茶を飲んでいただき、八女の良さを感じていただきたいです。



第71回全国茶品評会「玉露の部」農林水産大臣賞受賞
八女市 玉露生産者 久間 正太さん



八女伝統本玉露に触れる、愉しむ

八女茶を気軽に愉しめるのが星野村にある「茶の文化館」。お茶の歴史や製法を学べる他、抹茶碾き、和菓子作り、おいしいお茶の淹れ方、闘茶などの体験ができます。「茶の文化館」では、八女伝統本玉露はもちろん、お茶づくりのおもてなしが待っています。



広がる地産地消の輪

親子何代にもわたって伝わる郷土料理、採れたての野菜を使った名物料理など、八女の食材はぬくもりある「つくりて」によってこだわりの味となり、発信されています。

1 郷土のつくりて 農業 × つくりて



八女市は、県内有数の生産量、種類の多さ、高い品質を誇る農産物の一大産地です。全国ブランドとして確立されている八女茶をはじめ、電照菊等の花き、ブドウ、ナシ等の果樹、イチゴ、ナス等の野菜の主力産品を中心に、地域の

特性にあった付加価値の高い様々な農産物が生産されています。近年では、新規就農者の支援に力を入れ、元気な八女の農業の「つくりて」を育んでいます。



立花ウメウメ団

地元農家の女性たちで結成した「ウメウメ団」は、特産の梅を使ったお菓子作りに取り組んでいます。知恵と工夫で生まれたお菓子は道の駅「たちばな」で販売され、大人気です。



日本一の道の駅「たちばな」

「直売所甲子園2011」で最優秀賞の農林水産大臣賞に選ばれた道の駅「たちばな」。豊富な加工品の他、採れたて新鮮な農産物を「もてなしの心」をもって販売しています。





森林セラピー



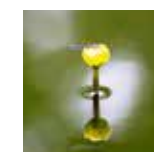
黒木町ヨシビの彼岸花



御膳岳



矢部川



日本を代表する自然美

九州山地の山間から流れる矢部川水系に位置し、山岳、川面、棚田、茶園、星空、花々などバリエーション豊かでダイナミックな自然美を楽しむことができる八女市。NPO法人「日本で最も美しい村」連合に加入している星野村をはじめ、各地域で四季折々にじっくりと心に染み入る風景に出会うことができます。

1 郷土のつくりて 自然 × つくりて



まるで、まち全体がセラピーであるかのような…。心と体にやさしい八女の自然。季節ごとに美しい彩りを魅せる花々、深い緑と川の蒼さに癒やされる溪谷美、福岡県の「山どころ」とも呼ばれる山など、四季折々、訪れるごとに魅力を再発見できます。九州オルレ八女コースも設定されており、自

然を五感で感じながら、自分のペースでゆっくり楽しむことも。さらに黒木町は、科学的な証拠に裏付けされた森林浴森林セラピー基地の認定を受けており、「森の案内人」と一緒に森を散策します。そんなところにも「おもてなし」の一面が見られる八女の自然です。



KURASHITE INTERVIEW

守るべき八女の自然

星野村は、棚田や星空など美しい自然環境を誇る村です。平成24年の災害を機に復旧活動が続けていますが、やはり人と自然が融合してできたものは強いですね。ここの石積の棚田は災害時も崩れることはありませんでした。単に元に戻すのではなく、「自然に戻すものは自然に」、「人に戻すものは人に」が重要です。美しい里山の風景には、たくさんの人々の手がかかっています。長い歴史の中で人々が育んできた営みある風景こそが八女の誇るべき自然です。



NPO法人 がんばりよるよ星野村 山口 聖一さん



星のふるさと

星野村の「星の文化館」は、平日でも昼間から望遠鏡を公開している全国でも稀な天文台で、いつでも星を見ることができます。九州最大級の天体望遠鏡や高精細フルカラーの最新プラネタリウム投影機などがあり、子どもから大人まで天体を身近に体感できます。



1
郷土のつくりて

技 つくりて

幾多の恵みをもたらしてきた清流と大地。そこから多彩な伝統工芸が生まれ、引き継がれてきました。八女市は「手工芸の里」と呼ばれ、八女福島仏壇、八女提灯、八女手すき和紙、八女石灯ろうなど、限られた地域に多くの伝統工芸の技が息づいています。昔から和紙は製茶の際の

手もみ作業にも使われており、八女茶という一流のブランドを生み出しました。江戸時代、農家の副業として始まり、明治時代の奨励策で基盤を築き、成長を続けてきた伝統産業。それは八女の文化そのものに影響し、今も職人の手によって受け継がれています。

匠の技が光る八女芸術

「つくりて」に紡がれてきた伝統が織りなすもの、それは優雅で美しく、緻密なまでに繊細で、今の世に輝いています。しかし、暮らしが西洋化してきた中、担い手が不足している現実があります。一度すたれてしまうと、取り戻すのに100年かかるといわれる「伝統」。工房を訪ね、手仕事を見つめれば、その尊さを感じずにいられません。



八女伝統工芸館

八女福島仏壇、八女提灯、八女手すき和紙、八女石灯ろうなど、八女が誇る伝統工芸品を一堂に集めた施設。高さ6.5mの大型金仏壇や、ジャンボ提灯など、職人の技を間近に見ることができます。

緻密なアーチと名石工

YAME COLUMN

八女が誇るもう一つの職人文化が石橋で、市内には41基も残っています。明治から大正時代に多く架けられ、道行く人を今もなごませています。全国的にも有名な石工棟梁の橋本勘五郎は、ここ八女の地で通潤橋の兄弟橋「洗玉眼鏡橋」を手がけました。その技術は八女の地に息づき、数多くの石橋が造られました。一連、二連…と、星野川の上流から続く「ひ・ふ・み・よ橋」、たもとでホテルが乱舞する橋など、石橋探訪も趣（おもむき）があります。





1

郷土のつくりて

風情 × つくりて

江戸時代に商工業が栄え、八女福島には商家や職人の町家が建ち並びました。その頃の面影が白壁の町並みとして今も残っています。白と黒の色彩やどっしりと構える家並み。時代を経て大切に守られてきた証がここにあります。また八女には、様々な伝統芸能が地域に根付いています。生活文化を継承し、伝えてきた心意気が、祈りや舞、唄の中に宿っています。



八女福島の燈籠人形

江戸時代から続く「からくり人形」の舞台で、三味線やお囃子の音に合わせ、着物姿の人形が華やかに舞い踊ります。福島八幡宮境内で、秋分の日のごころ3日間公演されます。
(国指定重要無形民俗文化財)

地域の想いを一つにする祭り



童男山(どうなんざん)ふすべ
不老長寿の薬を求めて秦から渡航してきた徐福の故事に基づくもの。徐福を温めた焚き火の行事は江戸時代から続いています。



風流・はんや舞
麻生神社に伝わる舞楽。晴雨祈願・風止の祭りで、平安時代に生まれた公家舞の名残りといわれています。(福岡県指定無形民俗文化財)



柳島の十七夜(あめがたまつり)
矢部川に身を投げた黒木城主の正室の観音像をあめがた売りが暖めたことに由来。高さ約8mのぼっけんぎょに火を灯し無病息災を祈ります。
(八女市指定無形民俗文化財)



雛の里八女ぼんばりまつり
雛人形のふるさと八女。約100軒の民家や商店が、江戸・明治時代の「箱びな」や、現代のお雛さまを飾り、人々を迎えます。



田代の風流
化粧をした男性が神輿のお供をしながら練り歩く大名行列。最後は八龍神社で風流を奉納します。
(福岡県指定無形民俗文化財)



祇園祭こっばげ面
氏子や地元の若者が鬼の面をつけて村人を青竹で叩き、無病息災を願い、農作物の害虫被害や梅雨災害など悪霊を払います。



旭座人形芝居

明治5年ごろ、黒木町笠原地区鰐八集落に祝いの座の余興から始まったとされる人形浄瑠璃で、県の無形民俗文化財に指定されています。現在は、旭座人形芝居保存会と黒木小学校人形浄瑠璃クラブの児童が保存と練習に取り組んでいます。
(福岡県指定無形民俗文化財)

受け継がれる伝統

八女市には、人々の暮らしに文化や産業とともに受け継がれてきた町並みが残されています。現在、市民の大切な財産である歴史的町並みや景観を守るため、住民と行政やまちづくり団体が一体となった保存継承の取り組みが進められています。



八女福島の町並み

慶長6年(1601年)の福島城の改修で整備された城下町を起源とし、久留米藩の中でも重要な商家町として繁栄しました。現在でも、江戸時代から明治時代に建築された大壁造の町家をはじめ、土蔵や寺社など多くの建築物が残されています。町並みでは、提灯・仏壇など多様な伝統工芸が生み出され、多くの店舗・工房が営まれています。平成14年、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

黒木の町並み

平安時代末期から戦国時代までこの地を支配した黒木氏の居城・猫尾城の城下町を起源とし、江戸時代以降は山産物を取扱う在郷町として栄えました。現在も明治期以降の町家や酒蔵などが多く残され、矢部川の堰(せき)や廻水路、棚田など、水利にまつわる歴史的風致が多く残されています。平成21年、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

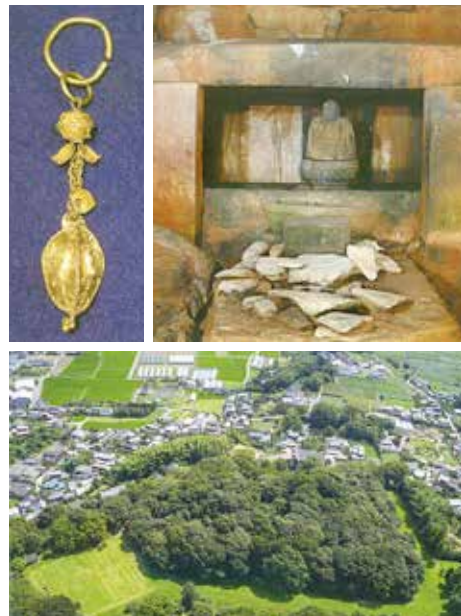


1
郷土のつくりて

歴史 × つくりて

岩戸山古墳は、北部九州最大の前方後円墳で磐井の墳墓とされています。磐井は6世紀前半頃に八女地方を治めていた古代豪族で、大陸との独自交流ルートを駆使し栄華を極めていたと思われます。しかし、継体大王（後の天皇）の時代、西暦527年に朝鮮半島との情勢と深く絡みあいながら「磐井の乱」が勃発し、翌528年に息子の「葛子」が「糟

屋屯倉」を献上し、乱は終結したと「日本書紀」は伝えています。しかしながら、その後も筑紫君一族は健在だったようで、鶴見山古墳などの大型前方後円墳が次々に築造されています。「磐井の乱」は古代史上最大の内乱と言われますが、磐井は郷土である八女の地をヤマト王権の厳しい負担から守るべく立ち上がった郷土の英雄ではないでしょうか。



南北朝動乱のドラマ

後醍醐天皇の南朝と、足利尊氏が擁立した光明天皇の北朝に分かれ、正統を争った南北朝時代。その終盤、北部九州は壮絶な戦いの舞台となりました。八女には征西将軍・懐良親王や、南朝最後の親王である後征西将軍・良成親王の御墓所などが残っています。



五条家文書 附八幡大菩薩旗

五条家文書は、南北朝時代征西将軍懐良親王に従って九州に下った五條家の来歴を物語る貴重な史料で、南朝史料として南北朝時代全期間を網羅している史料369通17巻が残されています。毎年、秋分の日に開催される「五條家御旗祭」では、虫干しを兼ねて文書と御旗の一般公開を行なっています。（国指定重要文化財）





1 郷土のつくりて

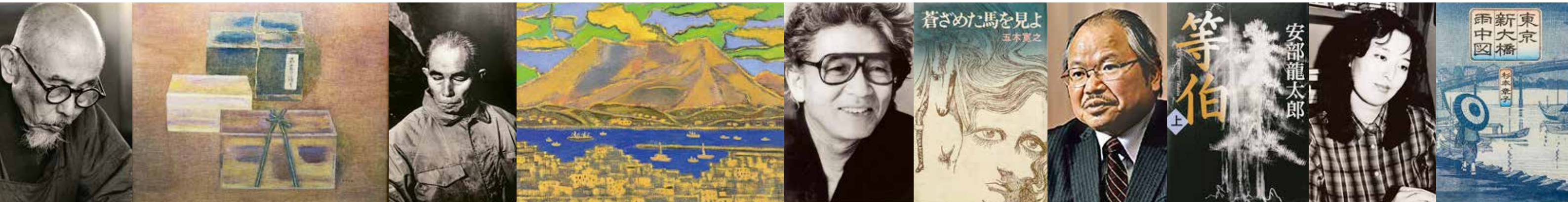
文化 つくりて

江戸時代、八女福島は久留米から豊後方面に往来する街道の要衝として発展しました。俳句や工芸、燈籠人形など多様な文化が生まれ、華々しく栄えてきた一方、明治時代以降は、多くの文化人を輩出してきたことも八女の魅力です。洋画家、文芸評論家、俳人、作家など分野は多岐にわ

たっています。市内の随所に文学碑がたてられ、豊かな文化の薫りを感じながら文学散歩が楽しめます。いつの時代も「つくりて」によってコト・モノ・ヒトが磨き上げられた八女市。「観る・知る・学ぶ」が絶えることのないまちです。

文化を受けつぐ

小・中・高生の作文朗読や合唱が行われる、坂本繁二郎の遺徳を偲ぶ式典「帰居祭」をはじめ、市では貴重な文化人の功績とふれあえる機会が数多くあります。田崎廣助美術館では、子どもたちを対象に、自分で彩色を施して作品を仕上げるイベントなどを実施しています。また、世界子ども愛樹祭コンクールでは国内外から多くの詩や作文・絵画などの作品が応募されます。



坂本 繁二郎

1882－1969／洋画家。久留米で生まれ、「馬の画家」と呼ばれたほど多くの馬の絵を残しました。八女の自然と風土を愛し、田園風景を「東洋のバルビゾン」と呼んでアトリエを建て、38年間制作に励みました。文化勲章受章。



田崎 廣助

1898－1984／洋画家。旧八女郡北山村生まれ。坂本繁二郎、青木繁の活躍に触発。パリ留学で西洋の美を学ぶも、帰国後「東洋の心」を悟り、日本の山を題材にした風景画を多く描き、「山岳画家」の地位を確立しました。文化勲章受章。



五木 寛之

1932－／小説家。旧八女郡辺春村生まれ。早稲田大学露文科中退後、編集者などを経て『蒼ざめた馬を見よ』で直木賞、『青春の門 筑豊篇』他で吉川英治文学賞を受賞。直木賞をはじめ、多くの文学賞の選考委員としても活躍。



山本 健吉



石橋 秀野

明治時代の文壇で活躍し、日本近代文学の基礎を確立した石橋忍月や、その三男で文化勲章を受章した文芸評論家・山本健吉、その妻で俳人の石橋秀野と、石橋家にまつわる文学資料館が学びの館（黒木町）と八女市立図書館本館2階にあります。八女はゆかりのある文化人を多数輩出し、昔も今も愛され続けています。

日本経済出版社

安部 龍太郎

1955－／小説家。黒木町生まれ。1990年『血の日本史』でデビュー。作品に『彷徨える帝』『関ヶ原連判状』『信長燃ゆ』『恋七夜』『道誉と正成』『天下を謀る』『蒼き信長』『姫神』、近著『おんなの城』など多数。「等伯」で直木賞受賞。

杉本 章子

1953－2015／小説家。八女市酒井田生まれ。1980年『男の軌跡』で作家デビュー。歴史時代小説を多く手がけ、晩年はホスピスにて執筆活動を続けました。「東京新大橋雨中国」で直木賞受賞。



山本健吉資料室



坂本繁二郎資料室



八女市田崎廣助美術館



2

YAME
CREATE

暮らしの つくりて

ともに手をとる
八女暮らし

今日も誰かの笑顔に出逢い、ふと幸せな気持ちになる。
「そんな日常が続けばいいな」とみんなが思う。手を取り合
い、喜びを分かち合い、幸せを確かめ合いながら。そんな八
女暮らしの日常があります。



やめっこ未来館／八女市立福島保育所が移転し、併せて新しく地域子育て支
援センターを開設した複合施設。一時預かり事業、やめファミリー・サポート・セン
ターなど、子どもたちの健やかな育成をめざしています。



全国から 選ばれる地へ

子育てのまち八女



KURASHITE
INTERVIEW

子育てしやすい八女市

子育てネットワークやめ会長 田代利衣さん

八女の子育てサークルがゆるやかにつながれば良いという想いから子育てネット
ワークやめの会長をさせていただいています。私自身、4歳の子どもを育てながら働いて
いますが、子育てネットワークやめを通して、地域の方々や同じ子どもを持つママさん
たちともゆるやかにつながり、支え合いながら子育てをしています。また、八女市は施
設面でも恵まれており、子育てしやすい環境が整っていると日々感じています。



アクティブ × つくりて

待ちに待った休日、サッカーボールを片手にやって来たのはスポーツ公園。公式規格のサッカーコートでボールを追いかければ気分はもうサッカー選手。八女東部スポーツ公園「グリーンフィールド八女」は、「グリーンピア八女」地内にあり、こだわり天然芝のグラウンドが人気の施設。敷地内施設には天然温泉や宿泊可能なレジャー施設が併設されており、周辺は森林セラピー基地に指定されています。癒やし、食、ものづくり、スポーツなど、アクティブに過ごせる場所で、今日もたくさんの人々が笑顔を交わしています。



「茶のくに・やめ」マラソン大会

九州オルレ
八女コース

矢部地区にある観光物産交流施設「柚（そま）のさと」／森林セラピー基地を持つ「くつろぎの森 グリーンピア八女」／上陽町のシンボル・ホテルと石橋をテーマにした観光施設「ほたと石橋の館」／旬の食材を使った料理や天然温泉が好評の八女市健康増進施設「べんがら村」



八女市観光案内所/ 八女観光物産館ときめき

茶のくに、歴史のくに、職人のくに、そして観光のくに。五感で満足できるスポットがたくさんあります。観光物産館「ときめき」には特産品をそろえています。

おりなす八女

縦糸と横糸が紡がれ、素晴らしい一枚の布を織りなしていくように、「時」と「人々」が混じり合いながら「豊かな八女」という無限に広がる布を織り上げていく…。八女市民会館「おりなす八女」は、そんなコンセプトのもと誕生しました。文化振興の拠点として、幅広い世代に利用されています。



フルコンサートピアノを備え、コンサートやミュージカル、演劇など、様々な公演やイベントに対応しています。

コミュニティ つくりて

いつの世も大切にされてきた八女市の歴史や文化、自然。それは地域特有の絆の強さ、人と人とのつながりの深さによって守られてきたもの。次代への教えを大切に、継承していくことのすばらしさを八女の人々は知っています。そして今、その精神は地域のコミュニティづくりに活かされ、連携や仕組みを育んでいます。平成24(2012)年7月に発生した九州北部豪雨災害で、八女市は甚大な被害に見舞われました。この時、再認識したのが地域の絆や人とのつながりの大切さです。安全・安心を願い、思いやりでつながる、そんなコミュニティづくりに取り組んでいます。



消防団や老人クラブなど、様々な分野で地域の活動が行われています。そこでは子どもからおとなまで、世代を超えた市民の交流があり、いきいきとコミュニティを築いています。FM八女では、災害時の緊急情報や市からのお知らせ、地域情報満載のオリジナル番組などを制作・放送しています。



全21団体で「地域振興計画」を策定

地域力、つながる力

八女市の21の地域づくり団体が互いに学びあう場として、八女市未来づくり協議会を組織しています。各団体の実践発表会や市執行部との意見交換会、八女市外から講師を招いての研修会、現地研修会の開催が主な活動です。各地域団体ごとに、地域の活性化や伝統の継承を目的に活動をしています。子どもたちも少なくなり、高齢化がますます進んでいきますが、人との交流を続けていくことが、八女の魅力と伝統を継承していくためには、大切なことだと思います。これからも、八女の魅力と伝統を発信し、八女市のまちづくりを行います。

八女市未来づくり協議会 田島富士雄会長





2
暮らしのつくりて

再生 つくりて

「まちの公園」のような場所へ……。そんな想いのもと、市民の手によって旧八女郡役所が生まれ変わろうとしています。明治20年代から大正2(1913)年までは郡役所として使われ、その後、木蠟工場や戦後の集合住宅などを経て平成8(1996)年から空き家になっていたところを、NPO法人

や多くの市民の手によって改修が進められています。大切にしているのは郡役所や木蠟工場だった頃の遺構を尊重し、リノベーションしていること。官民協働による再生・活用の事例として、また、八女福島再生のシンボルとして、古きを守り、新たな集いの場を創出しています。



戦後の情景をそのまま現代に映したかのような土橋(どばし)市場は、SNS映えの人気スポット。土橋の愛らしい商品をプロデュースする「ウメノ商店」。手仕事による商品を扱い、アンテナショップとして地域文化を伝える「うなぎの寝床」など、まちの風情を残しながら新たなにぎわいを生み出しています。



人が育てば、まちも育つ

明治20年代に誕生し、平成8年より空家となっていた「旧八女郡役所」は、平成22年、「NPO法人 八女空き家再生スイッチ」が譲り受け、平成29年3月、ようやく部分的に営業開始となりました。八女を想う多くの人々が再生した、まさに「公園のような憩いの場所」です。八女市には八女福島町の町並みをはじめ、多くの伝統家屋が残されていま

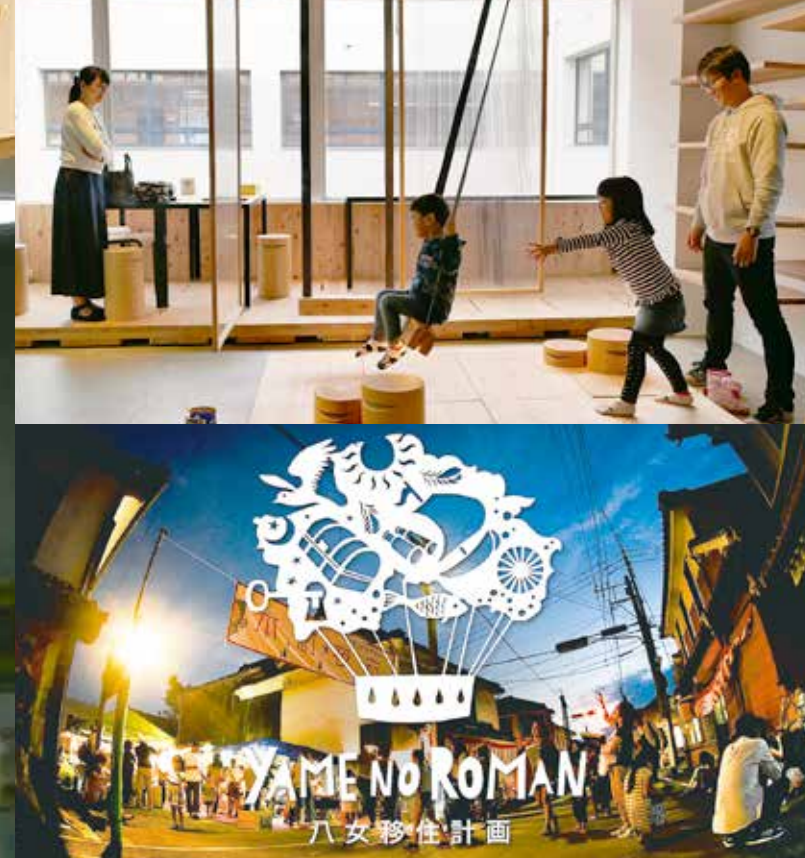
す。歴史的建築物を守りゆくことは、極めて困難を有することです。しかし、人が手を触れて次代につなぐ建物は単なる場所ではなく、「人の居場所」そのものです。人が育てばまちも育つ。八女市はこれからも歴史と今を生きる人をつなぎ、守り続けます。

2

暮らしのつくりて

定住 つくりて

どんな人にも、そこで暮らす確かな理由があります。「季節感のある暮らしが好き」、「素朴で飾り気のない里山生活が自分にはちょうどいい」、「自然豊かな環境で子どもをのびのびと育てたい」など。市では、理想の八女暮らしに少しでも応えられるよう、様々な定住支援・施策に取り組んでいます。若年世帯への家賃支援、空き家バンク制度、住宅改修の補助、充実した子育て支援など、多岐にわたる分野で対応し、「八女に住みたい。住んで良かった」と思ってもらえるような住み良い環境をめざしています。



八女移住計画「八女のロマン」

八女市に住む人の様々な生き方、生活スタイルを発信する移住定住促進プロジェクト。パンフレットや動画、SNSから感じられるのは、ほっこりしていてあたたかく、ノスタルジックな「空気」。改めて八女市の魅力に気付くことができます。ロゴマークは八女市の形をした気球をモチーフに、様々なロマンが散りばめられている姿を表現しています。また、市役所内に設けられた「八女市移住・定住支援センター」では、移住や定住支援施策に関する相談などをワンストップで対応しています。センターの内装は八女産の木材を使用し、八女産の木材のショールーム機能も兼ねています。



農業と子育て。 温もりある暮らしが八女にある

Uターン

野中真太郎さん

八女市立花町のみかん農家に生まれ、その後農業を学ぶため大学、就職と9年間を福岡市で過ごし、子どもの出産を機にふるさと八女へ戻って来ました。都会には何でもあるかもしれませんが、実家には常に家族や地域のつながりがあります。自分が育ってきたように農業に親しみながら子育てをしていきたいという強い想いがありました。八女は福岡県でも代表的な農業のまちです。周りには若い農家も多く、日々刺激を受けながら充実した農業と子育ての暮らしを楽しんでいます。



地域おこし協力隊を経て 感じた八女市の魅力

元地域おこし協力隊

田中臣仁朗さん・浩子さんご夫婦

2人とも3年間地域おこし協力隊として活動をしていました。現在、結婚をして「クマノス」というコミュニティスペースを運営しています。八女市の良いところは、農作物、道具など様々なつくりてさんにお会いできるところだと思います。皆さん尊敬できる方々ばかりです。生産者の方々と近くに感じながら食材をいただける有難さを噛み締めています。つくりてさんたちの意志を引き継いで、食材や道具をいかし、八女のコミュニティのハブになるカフェづくり(コミュニティづくり)をしていきたいと思っています。



YAME
CREATE

3 あたらしい くに 郷土づくり

第四次八女市
総合計画





ふる里タクシー



市街地



パークアンドライド駐車場



とびかた愛樹祭



蒲原住宅



上水道



都市基盤づくり

快適で安全・安心な暮らしを支える都市づくりと都市機能の充実をめざし、「都市基盤づくり」に取り組んでいます。市民生活や経済活動を向上・充実させていくうえで、より機能的な都市づくりが求められています。計画的な土地利用の推進や市街地について、その機能を充実させていくとともに、八女インターチェンジや国道442号を有効活用した

道路網の構築、デマンド交通を活かした公共交通手段の充実、情報通信基盤を活かした情報通信サービスの拡大を進めています。また、九州北部豪雨災害の被害を経て、河川改修や治山・治水対策、消防・防災体制の強化により、災害に強いまちづくりを進め、自然にやさしく安全な都市づくりに取り組んでいます。

生活・環境づくり

人と自然にやさしく、暮らしやすい生活空間づくりをめざし、「生活環境づくり」に取り組んでいます。本市の有する豊富な森林・美しい河川は市民共有の財産であり、これらの貴重な自然環境の保全に努めるとともに、ごみ対策、上下水道整備などを強化し、市民が快適に暮らすことのできる環境共生型の社会づくりをめざしています。あわせて、伝統的

建造物群保存地区及び棚田群に代表される美しい景観の保全、市営住宅の整備、市民の憩いの空間としての公園・緑地の維持などを進め、良好な生活空間の創出を図っています。また、関係機関との連携等により、犯罪被害や消費者トラブル、交通事故等から市民の生命や財産を守り、安心して暮らすことのできる社会の実現をめざしています。



写真はイメージです。

八女材を使った住宅の棟上げ



アンテナショップ八女本舗



企業の立地協定式典



乳児健診



ドクター・ヘリポート



八女地区障害者相談センターリーベル



産業の振興

地場産業・観光の振興と地域資源を活かした新産業創出、雇用の確保をめざし、「産業の振興」に取り組んでいます。雇用の拡大につながる産業振興を進めていくために、時代のニーズにあった新たな産業基盤の確立をめざすとともに、交通立地を活かした工業団地への企業誘致を進めています。また、八女ブランドとして名高い八女茶生産のさら

なる振興をはじめ、農産物直売所の整備など、付加価値産品の開発等に取り組み、産業の維持・発展に努める一方、観光資源を活かした滞在型観光、体験観光を推進し、交流人口の拡大による新たな賑わいと活力あふれる都市づくりに取り組んでいます。さらに、アンテナショップによる地域資源の発信を進め、既存産業の経営強化に努めています。

健康・福祉の充実

少子・高齢社会に対応し、自分らしく、安心して暮らせるまちづくりをめざし、「健康・福祉の充実」に取り組んでいます。今日の少子・高齢社会において、福祉環境や子育て環境の整備は重要な課題です。保育の充実、地域で子育て支援ができる環境づくりを進めている他、子育て支援総合施設「やめっこ未来館」を拠点とした子育て家庭の支援の充

実に努めています。また、「健康都市宣言」を行ない、健康寿命の延伸をめざした市民の健康づくりと併せて、地域医療体制の充実に努めています。さらに、地域でいきいきと暮らし、活躍できるシルバー人材センターの支援など、高齢者やしょうがい者が積極的に社会参加できる機会の拡充や生活環境の整備に努めています。



スマイルフェスタやめ

八女市大淵体験交流施設「げんき館おおふち」

八女市平和祈念式典



男女共同参画紙芝居

韓国巨済市との交流

奈良県吉野町との交流



教育・文化の振興

生きる力の育成と豊かな心を育てるまちづくりをめざし、「教育・文化の振興」に取り組んでいます。次代を担う子どもたちが、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育みながら、たくましく生きる力を身につけることができるよう、学校、地域、家庭の連携のもと、学校教育の充実を図るとともに、様々な学習機会の提供や市民が主体的に学ぶことができる生涯

学習の環境づくりを進めています。さらに、国際化への対応や平和事業の推進に取り組み、すべての市民が互いに認め合い、平和の尊さを伝えるまちづくりを進めています。また、伝統行事への支援や伝統芸能の後継者育成を図り、保存・継承活動に努めています。スポーツを通しての市民の健康増進や交流促進もさらに進めていきます。

市民参画と健全な行財政運営

市民とともに歩み、市民とともに進めるまちづくりをめざし、「市民参画と健全な行財政運営」に取り組んでいます。協働カフェの開催や、協働によるまちづくり提案事業の実施など、市民参画によるまちづくりの充実と市民団体を含む地域コミュニティの育成に努めています。また、健全財政の堅持とさらなる効率的行政をめざし、行財政改革の一層の

推進に取り組むとともに、多面的な広域連携の推進、地域活性化に取り組む定住自立圏構想の推進、国内・国外の都市交流を展開しています。さらに、人権の尊重や男女共同参画を基調に、すべての市民がお互いの違いを「違い」として認め合い、自分らしく暮らせるよう、市民がつながり合い、共につくるまちづくりに取り組んでいます。



議会

議会は、年4回定期的に開かれる定例会と必要に応じて開かれる臨時会があり、市長から提案された市政の方針や重要な事項を審議し、決定しています。また、市政が適正に執行されているかを監視しています。市議会と市長は、対等な立場に立ち、お互いにけん制し、調和を図りながら、より良い市政の実現に努めています。議員は、4年ごとに選挙によって選ばれ、定数は22人（H31年4月までは26人）と定めています。また、議会は、市民と協働のまちづくりを推進し、公正性・透明性を確保し、市民に開かれ、市民とともに歩み、市民に信頼され存在感のある議会をめざしています。



議長
川口 誠二



副議長
大坪 久美子

市長あいさつ

八女市は平成22年に2町2村と合併し、県内で2番目の広大な面積を持つ市となりました。平成24年7月には九州北部豪雨により甚大な被害を受け、各方面の皆さまから温かいご支援を賜りました。皆さま方のお力添えのもと、復旧・復興へ向けてたゆまぬ努力を続け、5年が経過した現在、おかげさまで復旧工事をすべて終えることができました。災害から復興を遂げた新しい八女市のスタートとして、この市勢要覧を発行できることを大変嬉しく思っています。先人から受け継いだ豊かな自然、歴史や文化、珠玉の伝統工芸の数々、そして豊富な農林産物はどれも八女市民の誇りであり、将来にわたって守るべき大切な宝です。今回は、その八女の宝をつくり、はぐくんでこられた「つくりて」の皆さまに登場していただきました。おもてなしの心とともに、美しく豊かなふるさと八女市を次の世代へと繋いでまいります。この市勢要覧が、八女市の魅力を広め、多くの皆さまに八女市を愛していただける一助となることを願っています。

平成30年3月 八女市長 三田村 統之



八女市役所本庁



八女市章



市民課窓口

市の木・市の花

八女市の自然や風土を象徴し、イメージにふさわしく、親しみある市木・市花を制定しています。
左から：市木「茶の木」「樟の木」／左から：市花「菊」「藤」「しゃくなげ」



市役所支所

広大な市域の中、各支所が連携し、地域の対応を迅速に行っています。
左から：黒木支所／立花支所／上陽支所／矢部支所／星野支所



各種シンボルマーク

八女市の特性を活かした親しみのあるシンボルマークを制定しています。
左から：シンボルマーク／イメージキャラクター「はちひめ」／イメージキャラクター「みどりちゃん」



シンボルマーク



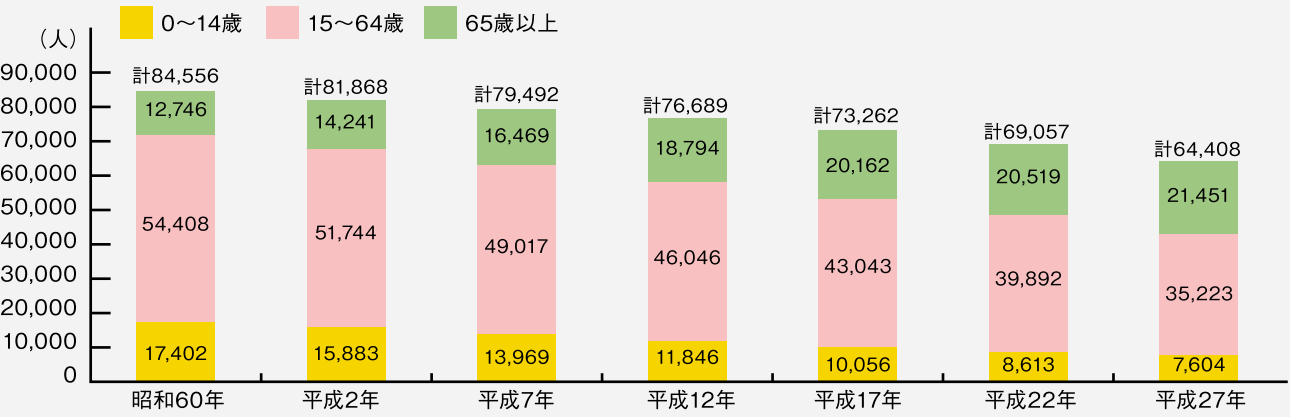
イメージキャラクター「はちひめ」



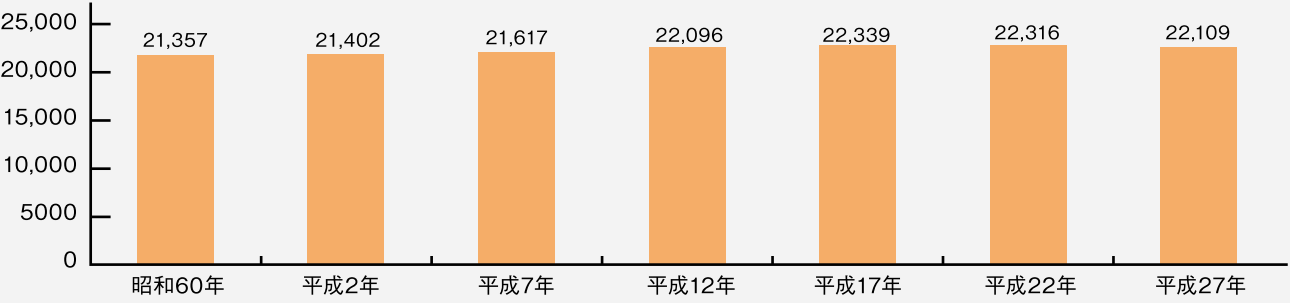
イメージキャラクター「みどりちゃん」

八女市資料編

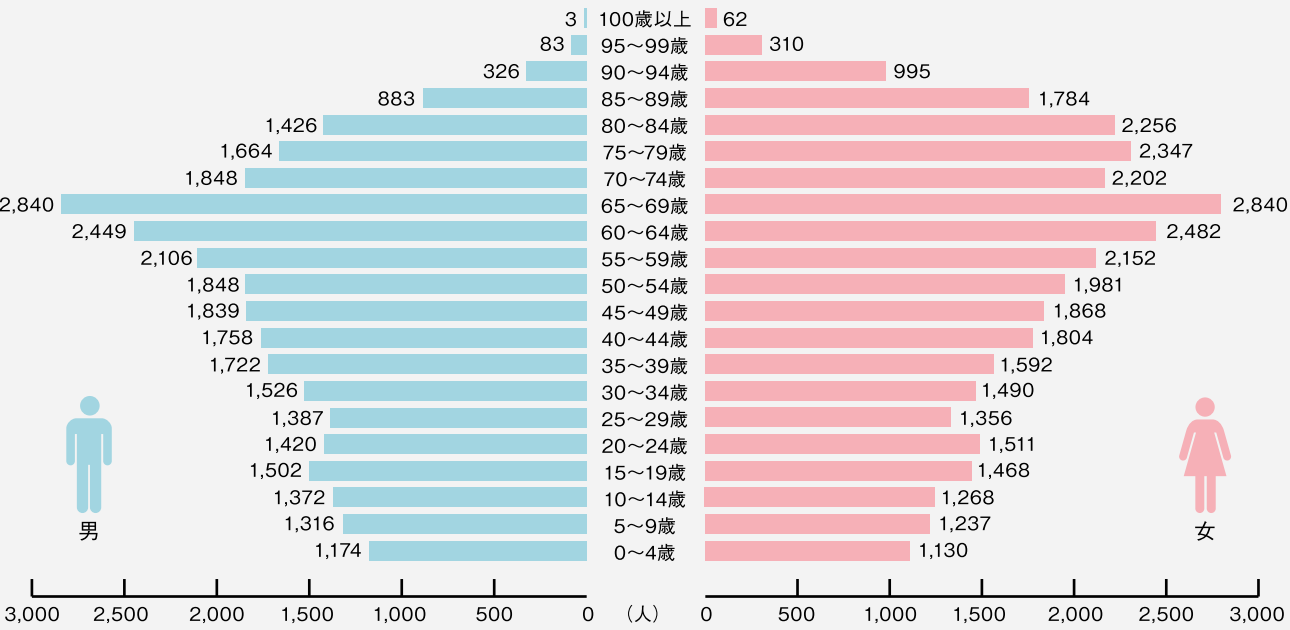
◆年齢別人口の推移(国勢調査)



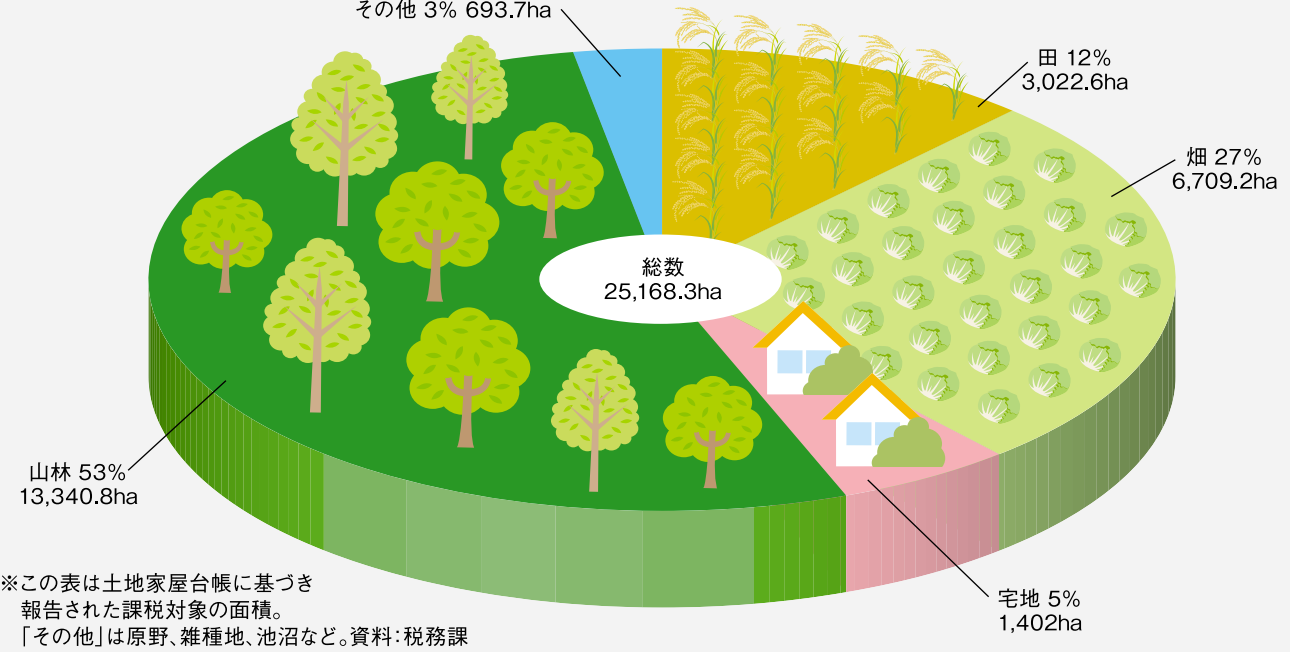
◆世帯数の推移(国勢調査)



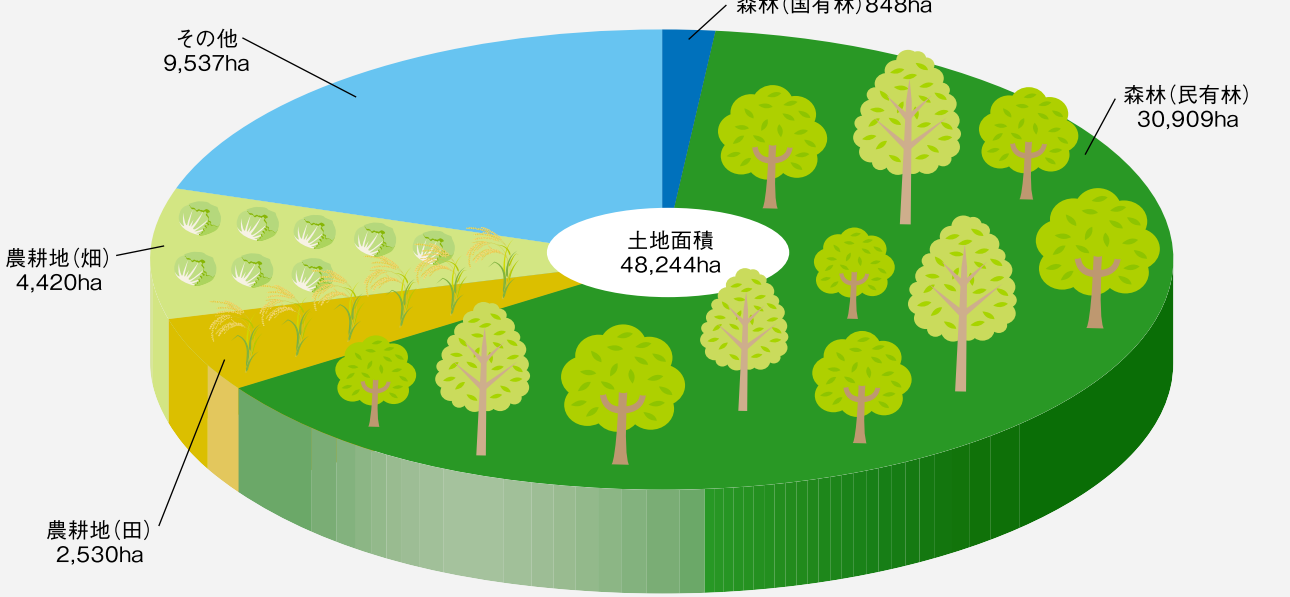
◆年齢別男女別人口分布(平成30年1月1日現在)



◆土地利用の状況(平成29年1月1日現在)



◆森林面積の現況(平成23年度)

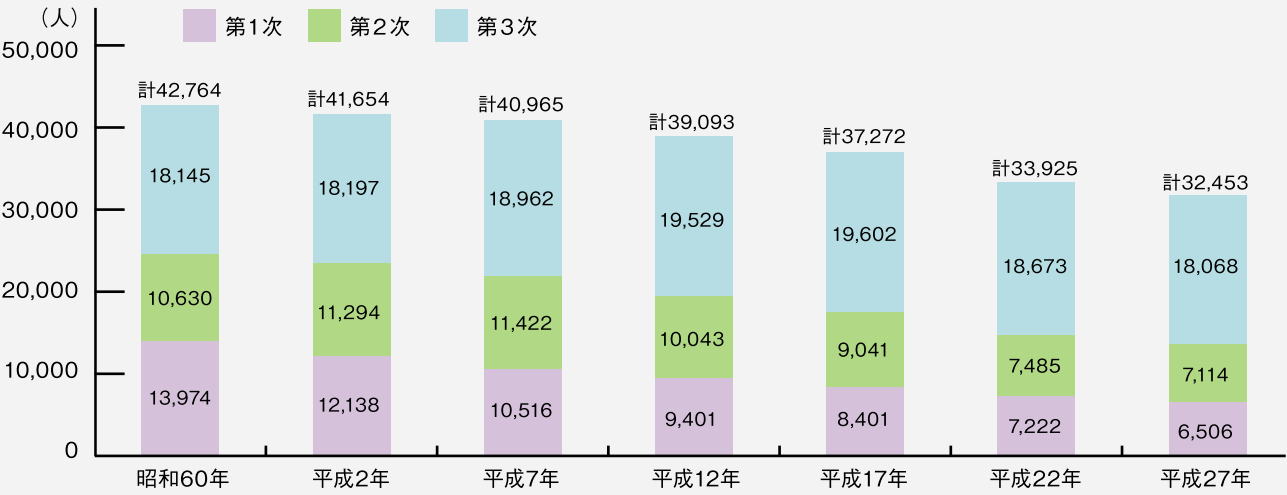


◆上下水道の状況(平成28年度末)

市総人口	上水道				簡易水道				下水道			
	箇所数	計画給水人口	現在給水人口	給水世帯数	箇所数	計画給水人口	現在給水人口	給水世帯数	処理人口	水洗化人口	普及率	水洗化率
65,027	1	41,200	35,639	12,193	2	6,780	5,932	2,164	11,532	8,006	17.7	69.4

資料:上下水道局

◆産業別就業人口(国勢調査)

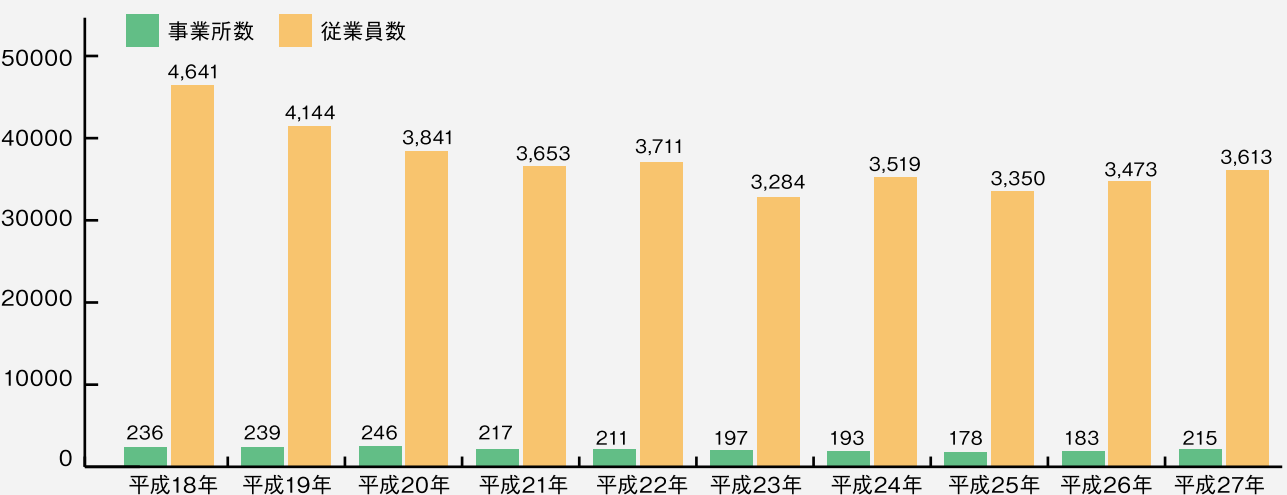


◆事業所数、従業者数、年間商品販売額及び売り場面積(平成26年)

合計			卸売業計			小売業計			売場面積 (㎡)
事業所数	従業者数 (人)	年間商品 販売額 (万円)	事業所数	従業者数 (人)	年間商品 販売額 (万円)	事業所数	従業者数 (人)	年間商品 販売額 (万円)	
680	4,044	9,281,392	139	916	4,503,674	541	3,128	4,777,718	90,516

資料:商業統計調査

◆【工業】事業所及び従業員の推移



資料:平成24年経済センサス・平成28年経済センサス

◆農業経営体 経営耕地面積規模別経営体数(2015世界農林業センサス)

計	経営耕地 無し	0.3ha 未満	0.3~ 0.5ha	0.5~ 1.0ha	1.0~ 1.5ha	1.5~ 2.0ha	2.0~ 3.0ha	3.0~ 5.0ha	5.0~ 10.0ha	10.0~ 20.0ha	20.0~ 30.0ha	30.0~ 50.0ha	50.0~ 100.0ha	100ha 以上
3,263	78	103	576	1,069	541	273	292	232	86	8	3	1	1	-

単位:経営体

◆農業経営体 農産物販売金額規模別経営体数(2015世界農林業センサス)

計	販売 なし	50万円 未満	50~ 100 万円	100~ 200 万円	200~ 300 万円	300~ 500 万円	500~ 700 万円	700~ 1,000 万円	1,000~ 1,500 万円	1,500~ 2,000 万円	2,000~ 3,000 万円	3,000~ 5,000 万円	5,000~ 1億円	1~3 億円	3~5 億円	5億円 以上
3,263	278	628	366	377	247	325	211	275	277	117	91	46	15	7	2	1

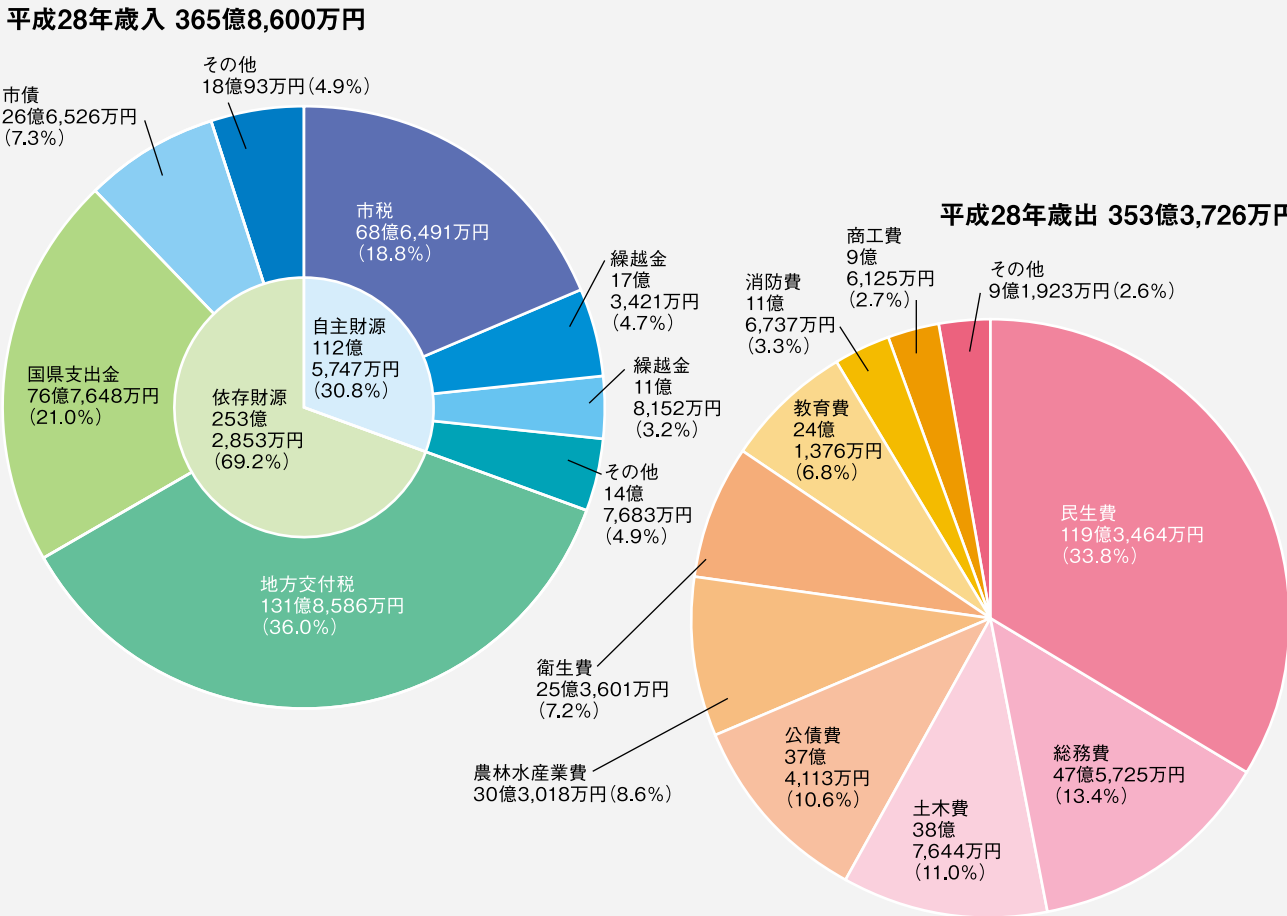
単位:経営体

◆山林 保有山林面積規模別経営対数(2015世界農林業センサス)

計	保有山林 なし	3ha未満	3~5ha	5~10ha	10~20ha	20~30ha	30~50ha	50~100 ha	100~500 ha	500~ 1,000ha	1,000ha 以上
456	2	5	126	116	96	40	33	20	16	2	-

単位:経営体

◆平成28年度決算状況



YAME
CREATE

八女のつくりて

つくる、はぐくむ、おもてなし。



八女市市勢要覧2018

発行：福岡県八女市

発行年月：平成30(2018)年3月

〒834-8585 福岡県八女市本町647番地

電話：0943-23-1111(代表) FAX：0943-22-2186



八女市公式サイト

八女市の各種情報を掲載している市公式サイト



八女観光オフィシャルサイト

八女市の観光情報をまとめたサイト



八女市公式YouTube

八女市のPR動画



八女移住計画特設サイト「八女のロマン」

八女市移住定住促進サイト